

令和7年度 現職日本語教師研修プログラム普及事業

難民等に対する日本語教師初任研修

アフガニスタン、ウクライナ、ミャンマー等から日本に逃れ、地域への定住をスタートさせている難民の背景をもつ方々が急増しています。この状況下、「日本語教育」の専門性をもって何かしらお役に立てないかと考えの日本語教師の方も大勢いらっしゃると思います。さぽうと21は、難民の自立支援を行う団体としての知見を活かして、「難民の背景をもつ日本語学習者を多視点から理解し、対人援助としての日本語教育の姿勢をもち、有用な日本語教育を行うことのできる日本語教師人材を育成する」ことを目的として、本研修の実施を決めました。ご関心のある方は、ぜひお申し込みください。

■対象 難民等への日本語教育を学びたい日本語教師、全講座参加可能な方
※研修当日に参加がかなわない場合は、コーディネーターと補講日の相談をしていただきます。

■日時 日曜日 9:30 から12:40 ※詳しくは、講義内容と日程をご確認ください。

■実施期間 第1期 2025年7月20日（日）から10月12日（日）
第2期 2025年10月19日（日）から2026年2月1日（日）
全60単位相当（45分×60コマ）の講座です。
研修は原則、日曜日に行われますが、内容等により他の曜日に実施の場合もあります。

■実施方法 オンライン（「演習特2 難民当事者との対話」のみ原則対面）

■受講料 15,000円

■申込方法 ①以下のURLまたはQRコードよりお申し込み下さい。
<https://forms.gle/2kpJScmQKZM4Sdag9>
②お申し込みから1週間以内をめどに受講料のお振込みをお願いします。
お振込み方法については、お申込みのあった方から順にお知らせします。



■申込〆切 第1期 2025年7月18日（金）
第2期 先着順にて受付

■主催団体「さぽうと21」について

社会福祉法人さぽうと21は、1979年に「インドシナ難民を助ける会」として事業を開始して以来、一貫して、難民等、何かしらの特別な事情により日本に留まることとなった方々の自立を支援するために、①相談事業、②就学支援事業、③学習支援事業などの取組を続けてきました。学習支援事業には、多くの日本語教師の方々のお力添えをいただいています。

主催 社会福祉法人 さぽうと21

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6階

TEL: 03-5449-1331 FAX: 03-5449-1332 E-mail: kensyu@support21.or.jp

[社会福祉法人さぽうと21 \(support21.or.jp\)](http://support21.or.jp)

■「修了要件」について

本研修の修了要件は、以下のように定めております。2025年度研修修了者には、オープンバッジが付与されます。修了要件は以下の通りです。

【修了要件】以下のすべての要件を満たすことをもって修了とする

1. 全ての講義および演習への参加

全ての講義および演習に出席し、各回の活動に積極的に参加すること（やむを得ない事情により欠席の場合は補講に参加）

2. 記録およびレポートの提出

求められる記録・レポートをすべて提出し、かつ期待された水準を満たしていること

振り返りシート：各講義・演習終了後に、学びや考察を記録した振り返りシートを作成・提出する

演習特1見学記録：指定フォーマットにそって見学の詳細な記録を作成し、提出する

演習特2課題レポート：演習特2で課されたテーマに基づき、適切な分析や考察を含むレポートを作成・提出する

実習および実習面談記録：実習活動の内容を記録し、面談を通じて得た学びや気づきの記録を含めて作成・提出する

最終レポート：学習の総括として全体的な振り返りを行い、学びや成果を統合した最終レポートを作成・提出する

3. 提出物に関する要件

記録およびレポートは、講義・演習の内容や日本語教師としての実践について振り返り、受講者自身にとっての新たな意味づけをすることが求められる。教育実践を改善していくのに十分な振り返りと意味づけを行うことが求められる。

■よくあるご質問

Q 欠席しなければならない回がありますが、申し込むことはできますか。

A 欠席は可能ですが、修了要件に定めております通り、「全講座受講」を修了要件としております。基本的には、翌月曜日の20時～21時半、翌火曜日の20時～21時半にコーディネーター立会のもと、当日の録画を「補講」としてご覧いただきます。翌日、翌々日のご都合がつかない場合は、個別に補講日を調整させていただきます。

Q 実習はどのように行われますか。

A 実習は、さぽうと21の「にほんごぷろぼの」という枠組みを活用して行っていただきます。皆様、お忙しいと思いますが、コーディネーターが日程調整を行い、難民の背景をもつ方々へのオンラインもしくは対面での日本語指導のお時間をお作りいただくこととなります。全4回の実習期間中、2回終了時、全回終了時に、オンラインで実習伴走者との振り返りの時間を設けております。

Q 研修の詳しい内容についてどこかでみることはできますか。

A 2024年度に研修特設サイト「ここくら」を開設しました。

<https://kokokura.com/about/>

第1期 講義内容と日程

※講義演習の内容、講師については変更場合があります。

回数	日程	① 9:30-11:00	② 11:10-12:40
1	7/20 (日)	【講義Aゼロ】「難民等」概論 武蔵大学社会学部 教授 人見泰弘	【講義Cゼロ】「難民等に対する日本語教育」概論 ※研修についての説明 ※見学についての説明 (社福) さばうと21 矢崎理恵
2	7/27 (日)	【講義A2】日本の難民等受入れの経緯と基本的な受入れ方針・体制等 (公財) アジア福祉教育財団 難民事業本部 鈴木昌広	【講義C1】難民等に対する日本語教育 (公的な支援を中心に) (公社)国際日本語普及協会 (AJALT) 宮下しのぶ
3	8/3 (日)	【講義A1】世界における難民等の現状 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 駐日事務所 葛西伶	【講義C3】中国帰国者に対する日本語教育 首都圏中国帰国者支援・交流センター 小川珠子
4	8/10 (日)	【講義A3】日本における難民等の現状 FRJ なんみんフォーラム 榎山怜美	【講義C2】難民等に対する日本語教育 (公的な支援以外を中心に) (社福) さばうと21 矢崎理恵
5	8/17 (日)	【講義B1】日本における難民等の多様性① 認定NPO法人 難民支援協会 (JAR) 鶴木由美子	【演習ゼロ】難民等に対する日本語教育に必要な知識・技能・態度を身に付けていくには 愛知大学 非常勤講師 和田貴子
6	8/24 (日)	【講義B5】難民等への理解を深める 一臨床心理学の視点からの理解一 大正大学地域創生学部 公共政策学科 教授 鶴川晃	【演習1】積極的傾聴 名古屋大学日本法教育研究センターカンボジア 特任講師 大室文
7	8/31 (日)	【講義B2】日本における難民等の多様性② 早稲田大学日本語教育研究センター 田中美穂子	【演習2】異文化調整能力・課題の共有・評価とフィードバック 愛知大学 非常勤講師 和田貴子
8	9/7 (日)	【講義B4】難民等への理解を深める 一言語学習者としての側面から一 国立国語研究所 研究系 准教授 野山広	【演習3】難民等に対する日本語教育及び難民支援の視点や実践知から学ぶ 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 伴野崇生
9	9/14 (日)	【演習特2①】難民当事者との対話<本番> ※対面 田中美穂子、和田貴子/伴野崇生、榎山怜美、大室文、栗又由利子、大河原知草、北村真理ほか	こちらの日程は、受講者の方々のお住いの地域により、研修開始後に調整もさせていただきます。また、できる限り、対面での参加をお願いいたしますが、ご事情によりどうしても対面参加が難しい方のために、 9/15 (月) 19時半～21時にオンラインでの実施も予定しております。
10	9/21 (日)	【講義D1】難民等の社会参加 (社福) 日本国際社会事業団 常務理事 石川美絵子	
11	9/28 (日)	【講義B3】難民等の異文化受容・適応(ケースメソッド) 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 伴野崇生	【演習特1】さばうと21学習支援教室他日本語教育の実践の現場を見学 (振り返り) 田中美穂子、大室文/和田貴子、栗又由利子、大河原知草他
12	10/5 (日)	【講義D2】難民等のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語教育 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 伴野崇生	
13	10/12 (日)	【演習特2②】難民当事者との対話<振り返り> 田中美穂子、和田貴子/伴野崇生、榎山怜美、大室文、栗又由利子、大河原知草、北村真理ほか	【演習4】私にとって「難民等に対する日本語教育とは」/教師として学び、成長し続けるために 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 伴野崇生
8月～9月上旬		【見学】難民等への日本語教育を行う機関を訪問、見学	
9月～11月		【実習】オンラインでの日本語教育の実践 矢崎理恵、大室文、田中美穂子、和田貴子、栗又由利子ほか	
		実習は期間内に、全450分(10単位相当)のオンライン(場合により対面)での個別指導となります。日程は個別に調整させていただきます。実習担当者が伴走します。	

第2期 講義内容と日程

※講義演習の内容、講師については変更場合があります。

回数	日程	① 9:30-11:00	② 11:10-12:40
1	10/19 (日)	【講義Aゼロ】「難民等」概論 武蔵大学社会学部 教授 人見泰弘	【講義Cゼロ】「難民等に対する日本語教育」概論 ※研修についての説明 ※見学についての説明 (社福) さぼうと2 1 矢崎理恵
2	10/26 (日)	【講義A2】 日本の難民等受入れの経緯と基本的な受入れ方針・体制等 (公財) アジア福祉教育財団 難民事業本部 鈴木昌広	【講義C1】 難民等に対する日本語教育 (公的な支援を中心に) (公社)国際日本語普及協会 (AJALT) 宮下しのぶ
3	11/9 (日)	【講義A1】 世界における難民等の現状 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 駐日事務所 葛西伶	【講義C3】 中国帰国者に対する日本語教育 首都圏中国帰国者支援・交流センター 小川珠子
4	11/16 (日)	【講義A3】 日本における難民等の現状 FRJ なんみんフォーラム 檜山怜美	【講義C2】 難民等に対する日本語教育 (公的な支援以外を中心に) (社福) さぼうと2 1 矢崎理恵
5	11/23 (日)	【講義B5】 難民等への理解を深める 一臨床心理学の視点からの理解一 大正大学地域創生学部 公共政策学科 教授 鶴川晃	【演習ゼロ】 難民等に対する日本語教育に必要な知識・技能・態度を身に付けていくには 愛知大学 非常勤講師 和田貴子
6	11/30 (日)	【講義B1】 日本における難民等の多様性① 認定NPO法人 難民支援協会 (JAR) 鶴木由美子	【演習1】 積極的傾聴 名古屋大学日本法教育研究センターカンボジア 特任講師 大室文
7	12/7 (日)	【講義B2】 日本における難民等の多様性② 早稲田大学日本語教育研究センター 田中美穂子	【演習2】 異文化調整能力・課題の共有・評価とフィードバック 愛知大学 非常勤講師 和田貴子
8	12/14 (日)	【講義B4】 難民等への理解を深める 一言語学習者としての側面から一 国立国語研究所 研究系 准教授 野山広	【演習3】 難民等に対する日本語教育及び難民支援の視点や実践知から学ぶ 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 伴野素生
9	12/21 (日)	【講義B3】 難民等の異文化受容・適応(ケースメソッド) 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 伴野素生	【演習特1】 さぼうと2 1 学習支援教室他日本語教育の実践の現場を見学 (振り返り) 田中美穂子、大室文／和田貴子、栗又由利子、大河原知草他
10	1/11 (日)	【演習特2①】 難民当事者との対話<本番> ※対面 田中美穂子、和田貴子/伴野素生、檜山怜美、大室文、栗又由利子、大河原知草、北村真理ほか	こちらの日程は、受講者の方々のお住いの地域により、研修開始後に調整もさせていただきます。また、できる限り、対面での参加もお願いいたしますが、ご事情によりどうしても対面参加が難しい方のために、 1/12 (月) 19時半～21時にオンラインでの実施も予定しております。
11	1/18 (日)	【講義D1】 難民等の社会参加 (社福) 日本国際社会事業団 常務理事 石川美絵子	
12	1/25 (日)	【講義D2】 難民等のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語教育 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 伴野素生	
13	2/1 (日)	【演習特2②】 難民当事者との対話<振り返り> 田中美穂子、和田貴子/伴野素生、檜山怜美、大室文、栗又由利子、大河原知草、北村真理ほか	【演習4】 私にとって「難民等に対する日本語教育とは」／教師として学び、成長し続けるために 慶應義塾大学総合政策学部 准教授 伴野素生
11月～12月上旬		【見学】 難民等への日本語教育を行う機関を訪問、見学	
12月～2月		【実習】 オンラインでの日本語教育の実践 矢崎理恵、大室文、田中美穂子、和田貴子、栗又由利子ほか	

実習は期間内に、全450分（10単位相当）のオンライン（場合により対面）での個別指導となります。
日程は個別に調整させていただきます。実習担当者が伴走します。